

1 改訂にあたって

今回の改訂では、これまでも大切にしてきた生命尊重、人間尊重、男女平等を基盤とした性に関する指導の目標を再確認するとともに、新たな課題に対応した実践を例示することで、一人一人を大切に、豊かな人間関係を構築できるような児童生徒の育成を目指しています。

(1) 前回までの手引作成について

前回の手引作成の背景

エイズのまん延や若者を中心とした性の逸脱行動など、社会情勢のめまぐるしい変化に伴い、児童生徒を取り巻く環境も変化してきました。こうした状況に対して、岐阜県学校保健会では、岐阜県教育委員会と連携し、性に関する指導の推進を図ってきました。

一方で、医療関係者や保健衛生関係者から、予防の側面を強調した教育の必要性が叫ばれるなど、学校における性に関する指導のとらえ方が大きく揺らいでいました。これらのことを受け、平成17年「性教育プロジェクトチーム」を立ち上げ、性に関する指導の手引「学校における性教育 Part I（平成18年3月）」「学校における性教育 Part II（平成19年3月）」を作成しました。

前回の手引の内容

前回の手引の中では、昭和40年～50年代の人間の生理や性行動を科学的に理解させることを重視した性教育及び昭和60年代の生命尊重、人間尊重、男女平等の精神を基盤とした人間関係の在り方を重視した性に関する指導、これらは、どちらの指導理念も人間の生き方の教育であるにとらえ、性に関する指導の目標等を示しました。また、性に関する指導は、体育・保健体育のみならず、道徳や特別活動等、学校教育活動全体を通じて取り組むものであり、教科等の役割を明確にした上で、相互に関連させた取組が必要であるとし、小・中・高等学校・特別支援学校における12年間の指導について整理しました。



学校における性教育 PART I
平成18年3月



学校における性教育 PART II
平成19年3月

(2) 今回の手引改訂にあたって

改訂の背景	<p>前回の手引の作成から10年が経ち、国際化や情報化が進み、児童生徒を取り巻く環境は、さらに大きく変化しています。とりわけ、インターネットやスマートフォンの普及により、性に関する情報が氾濫していることや、SNSの普及による仲間との関係づくりなど、新たな問題も生まれています。</p> <p>また、エイズの治療は進歩し、早期発見し適切な治療を受けていれば、通常の生活を過ごすことが可能となり、他の人に感染させることもなくなるにもかかわらず、依然としてエイズや性感染症の感染者数は減少傾向を示していない状況であり、青少年への感染も続いています。</p> <p>さらに、人々の性に関する考えも変化しています。文部科学省から、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施について」(平成27年4月)、「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について」(平成28年4月)等により、性同一性障害がいへの対応の実施にあたっての配慮事項がまとめられました。そこでは、学校においても、性同一性障害の児童生徒はもちろん、性的マイノリティとされる児童生徒の、悩みや不安を受け止めることの必要性が示されており、学校において適切な対応が求められています。</p> <p>このような点から、今回の改訂では、これまでも大切にしてきた生命尊重、人間尊重、男女平等を基盤とした性に関する指導の目標を再確認するとともに、上記に示した、性感染症への課題、SNS等の普及による人間関係づくり、性情報の氾濫等新たな課題に対応した実践を例示することで、一人一人を大切に、豊かな人間関係を構築できるような児童生徒の育成を目指していきます。</p>
改訂の視点	